

踏み跡 <My Mountains>

千葉の山	大土手山(ルボン山)	No.338
------	------------	--------

畑からの帰り道で四街道市文化センターの交差点をいつものように左折して大日五叉路の信号待ちの行列に並んだ。さほど渋滞する交差点でもないのに、信号の替り目を見落とさぬように前を向いているのだが、なぜかこの日は周りの景色を観察していた。

酒屋の脇の路地に三角形の小山があるのが見えた。こんな所に山があるのは不思議と思って、帰宅後に早速調べて見た。山の名前は「大土手山(又の名をルボン山)」ということがわかった。

インターネット上でわかった情報によると、佐倉藩が木戸場に造った西洋砲術射的場の標的として造られた人工の山であることがわかった。

砲術射的場は明治に入って明治政府に受け継がれて、陸軍野戦砲兵学校となり、フランス陸軍のジョルジュ・ルボン大尉の指導の下に、さらに新しい砲術の訓練を行なうようになった。これまでに使用していた大土手山にルボン大尉の助言を得て手を加えて完成したことからルボン山と言うようになったとのことだった。

陸軍野戦砲兵学校は明治30年に四街道(大土手山がある所)に移転し、さらに陸軍の施設として増強された。そして、陸軍野戦砲兵学校の砲術訓練の標的は、木戸場に設けられて立場が逆転することになった。大土手山はその後、皇族や要人の視察時の立ち見台としても使われた。

早速この山に登ってみることにした。

2024年1月30日

路地裏に入り真下から眺めると、四街道市文化センターとマンションの間にはさまるようになっている円錐状の小山の高さは5~6mかそれ以上あるように見えた。

70段ほどの石段を登ると狭い頂上には藤棚と石のベンチがあり、突起物の少ない四街道の町がよく見える展望台だった。いきなり70段も石段を上ると一仕事した気分になった。

特に背の高い建造物がない西側の展望が良く、日没鑑賞には持ってこいの感じがした。(地図 <https://yahoo.jp/tSzf7u>)

平坦地が多い四街道でこれほどの高さがある三角点がないのは不思議だと思って、帰宅後に調べて見た。大正時代・昭和初期の地形図を見ると陸軍野戦砲兵射撃学校の施設の中に海拔32.7mの三角点が記されているが、その場所は大土手山から南南東に離れた軍隊の建造物のある場所だった。現在イトーヨーカドーがある所なのでもはや確認は不可能。ところが、ここで現在の地形図を開いて見たら大土手山の10mほど西側の空き地に25.1mの三角点があることがわかった。

行って見ると「大熊記念コミュニティセンター」跡地の空き地で、現在は町会の自治会館が建つ公園になっていた。戦後、陸軍の施設を解体した時に消えてしまった32.7mの三角点の代わりに公園内に25.1mの三角点を設けたのだろうか。それにしても立派な大土手山があるのに、その影に隠れた低い場所に三角点を設置するということも考えにくいことだが……。

その後いくつかの情報をまさぐる内に、大土手山は海拔37mであるという情報に遭遇した。

ことによると、四街道市で一番高い山なのかもしれない。

